

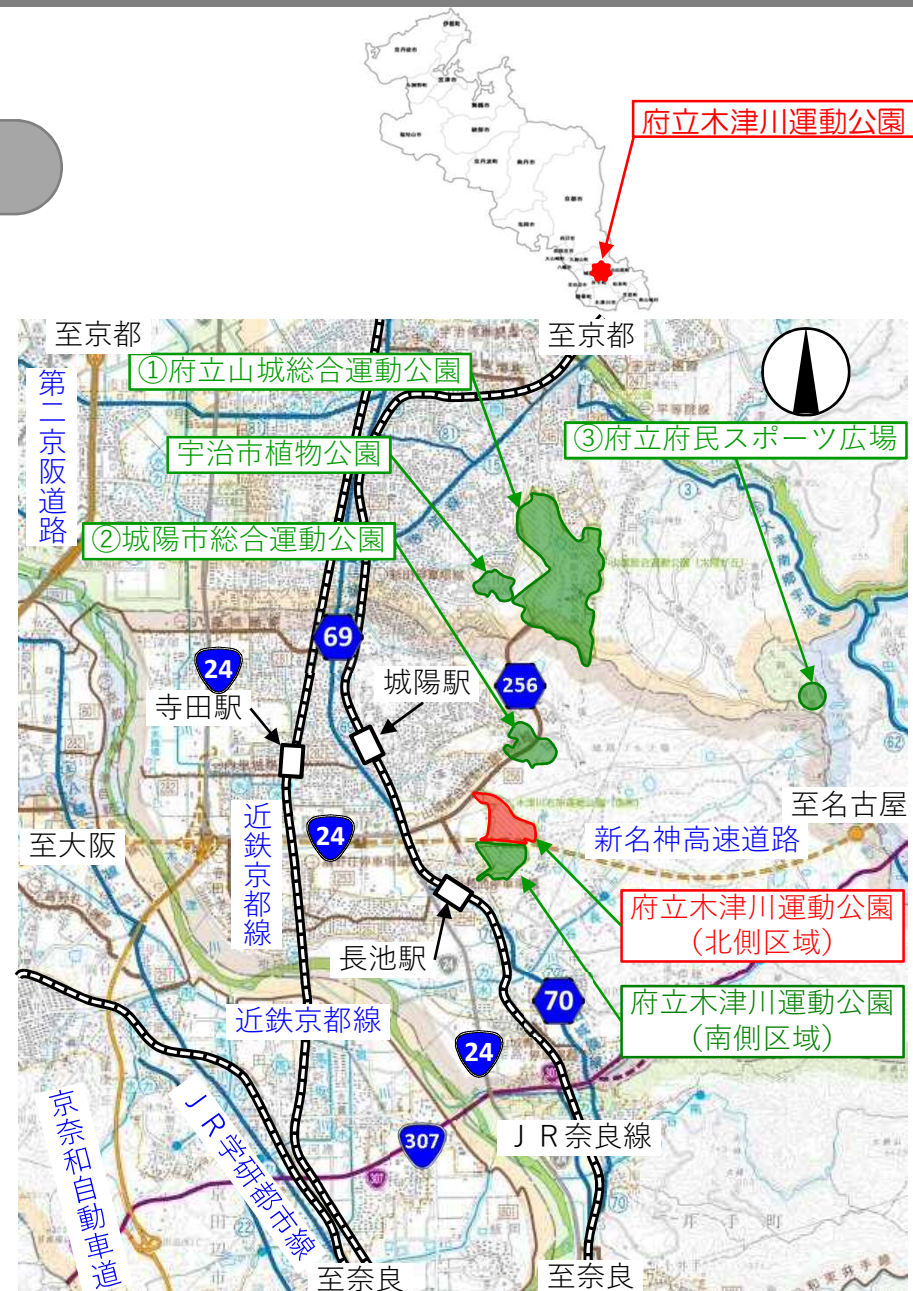
## 木津川運動公園(北側区域) 公園の概要、方向性について

1. 計画地及び周辺の概要
2. 木津川運動公園を取り巻く状況の変化
3. 計画地の状況と基本造成計画案
4. 都市公園の整備・運営に係る最近の動向
5. 課題の整理
6. 木津川運動公園(北側区域)の方向性案

# 1. 計画地及び周辺の概要

## 1. 1 木津川運動公園の周辺状況

- ①京都府立山城総合運動公園  
 所在 宇治市広野町  
 面積 92.3ha  
 施設 陸上競技場、体育館、プール  
 球技場、野球場、弓道場 等
- ②城陽市総合運動公園  
 所在 城陽市寺田奥山  
 面積 16ha  
 施設 体育館、野球場、多目的広場  
 テニスコート等
- ③京都府立府民スポーツ広場  
 所在 久世郡久御山町  
 面積 9.7ha  
 施設 グラウンド、自由広場



1. 2 木津川運動公園公園整備の経緯

平成7(1995)年度

- 2002年ワールドカップが開催できる運動公園として都市計画決定  
⇒日韓合同開催等の関係もあり会場候補地から落選



平成15(2003)年6月～平成16(2004)年3月

- 整備計画の見直しを行うため、平成15年6月に有識者や地元関係者等による「整備計画検討委員会」を設置  
⇒平成16年3月に上記委員会の提言を受け、現計画を策定



平成26(2014)年3月

- 南側区域を先行して整備を進め、平成26年3月に10.9haを供用開始



現在

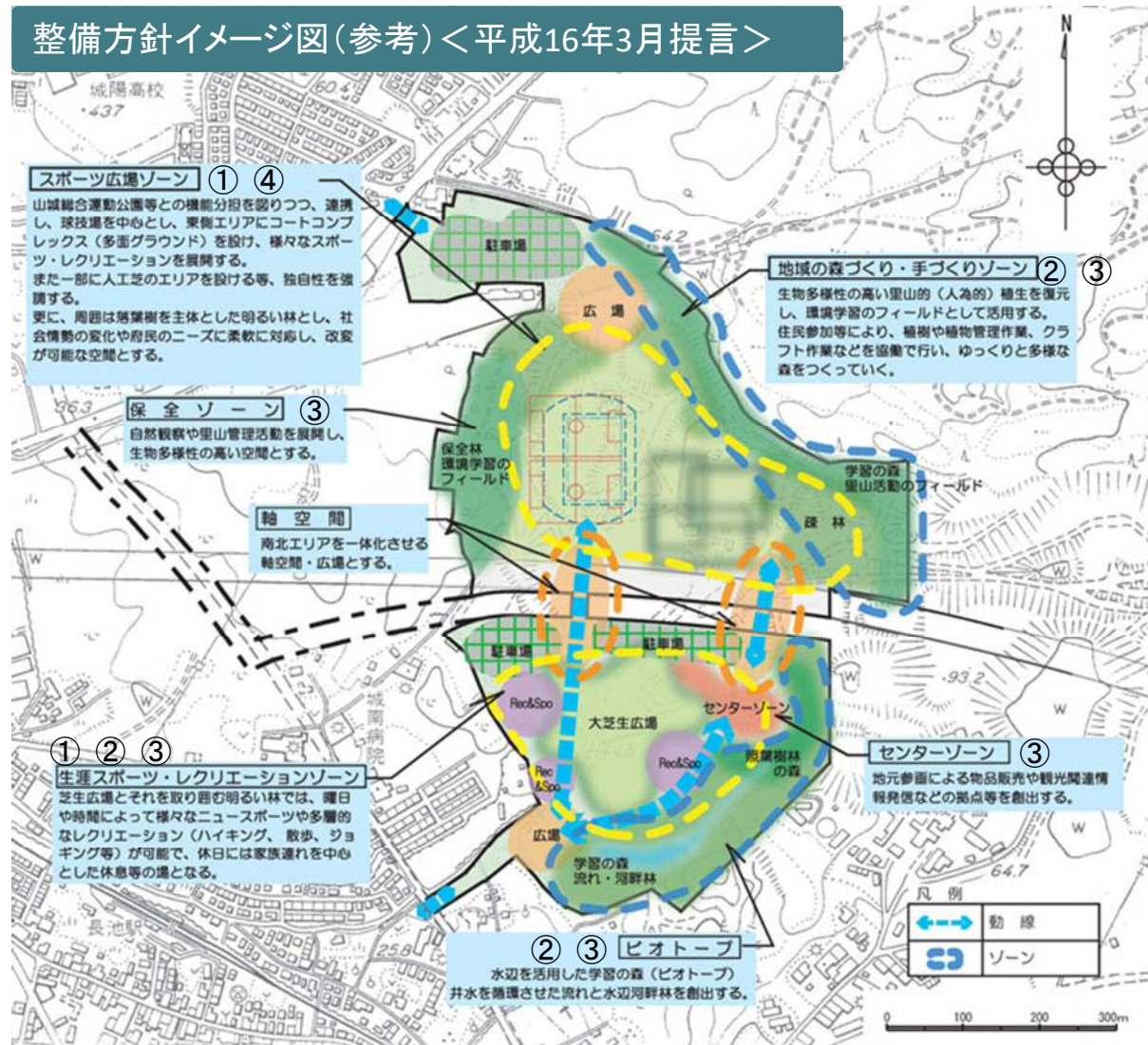
- 南側区域は大芝生広場、ファミリー広場、ちびっこ広場等が整備され、年間約10万人が利用



1. 3 現計画（提言）の概要

<p>基本的な方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園</li> <li>● 計画から整備、管理運営まで府民参画により府民が育てる公園</li> </ul>
<p>空間利用の考え方</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもからお年寄りまで幅広い府民が気軽にスポーツを楽しめる公園</li> <li>② 多様なレクリエーションニーズに応え、交流の輪が広がる公園</li> <li>③ 多くの利用者で賑わい、地域の振興に寄与する魅力あふれる公園</li> <li>④ 安心・安全を確保する広域的な防災の機能を持つ公園</li> </ol>

整備方針イメージ図(参考)＜平成16年3月提言＞



※①～④は「空間利用の考え方」

1. 4 現地の状況（南側区域）

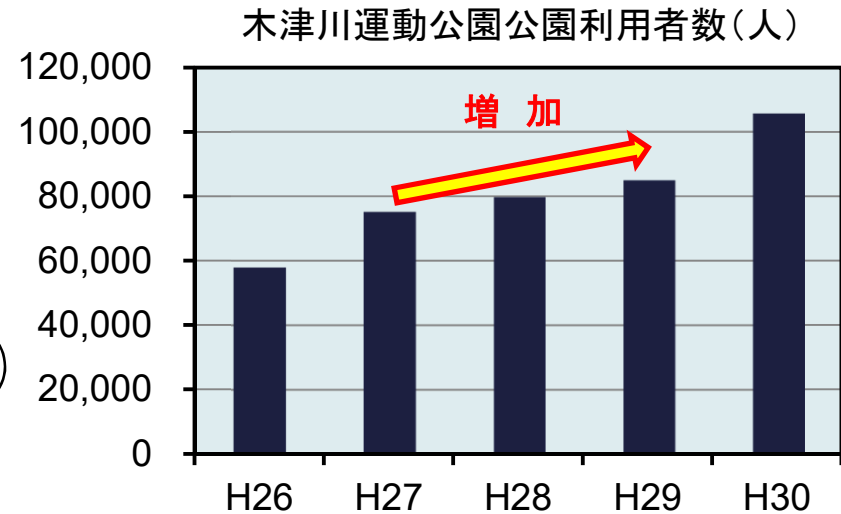
- ◆ 南側区域は、幅広い世代が利用できるレクリエーションの場として整備
- ◆ 公園内施設及び駐車場は、無料
- ◆ 指定管理者制度による公園管理
- ◆ 城陽市が指定避難場所に指定
- ◆ 平成30年度年間利用者数：105,753人



約2ヘクタールの大芝生広場



大型遊具（ザイクラミング）



平成30年度の公園運営状況

	利用者数 (人)	利用者一人あたり(円/人)		
		利用料収入	指定管理料	運営経費計
山城総合運動公園	1,274,505	141	273	414
府民スポーツ広場	103,969	46	236	282
伏見港公園	278,864	311	171	481
丹波自然運動公園	608,197	99	379	478
けいはんな記念公園	611,431	22	170	192
木津川運動公園	105,753	0	543	543



## 1. 5 府民参画による自然再生への取り組み（南側区域）

**参画・再生の森、公園外周部【面積：約5.2ha（一部未開園）】**

山城地域の里山風景の再生を目指し、府民参画により地域で採取した種から育てた木を植える森づくり活動を行い、森を楽しみ、自然観察や環境学習ができるエリア

- ◆ 府がボランティア募集を行い、平成18年度より「森づくりグループ」が活動開始
- ◆ 平成19年度より苗木の育て親活動（苗木育成、植樹、環境学習等）開始
- ◆ 開園と同時に、「森づくりグループ」による「森守クラブ城陽」設立
- ◆ 現在の会員は約50人で、月4回程度の活動
- ◆ 令和元年9月までにおよそ1万本の植樹（内、平成30年度植樹418本）



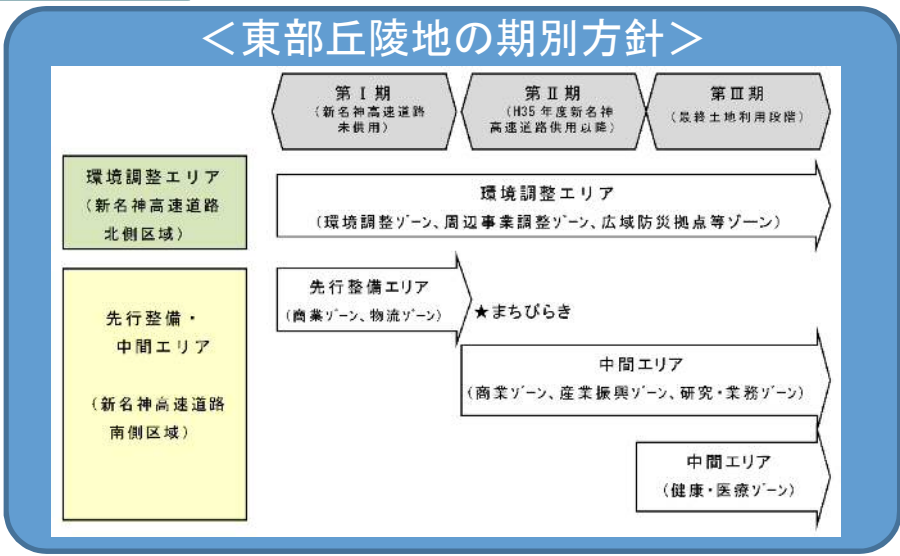
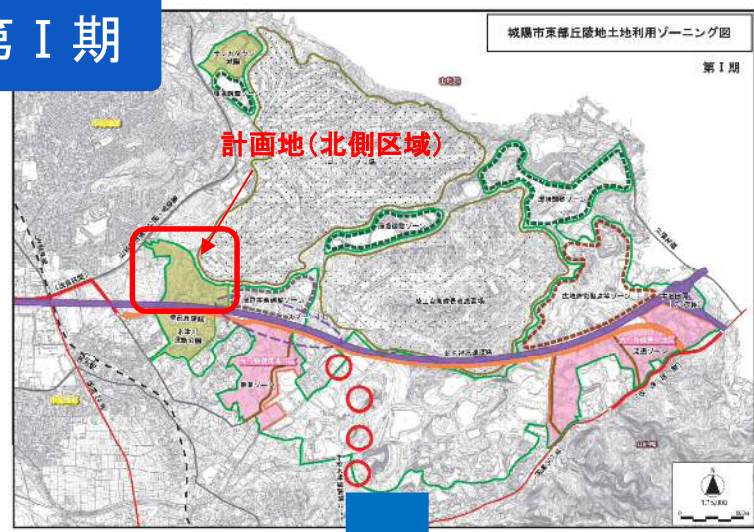




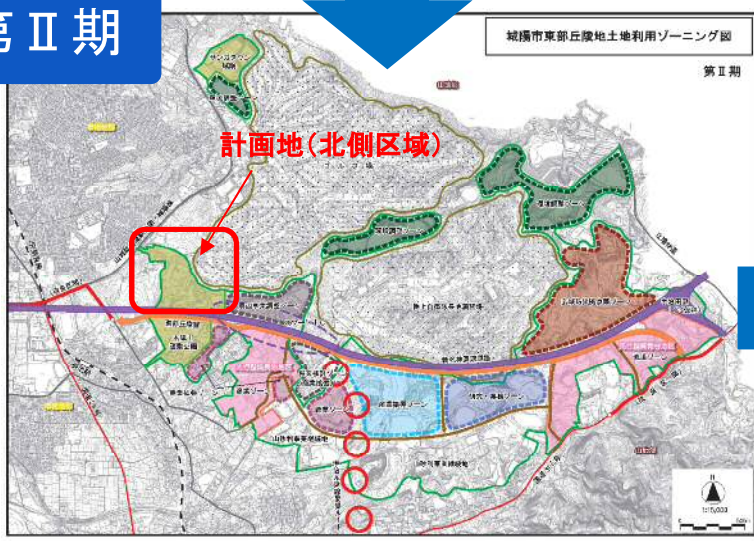
2. 2 関連計画

城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】(H28.5)

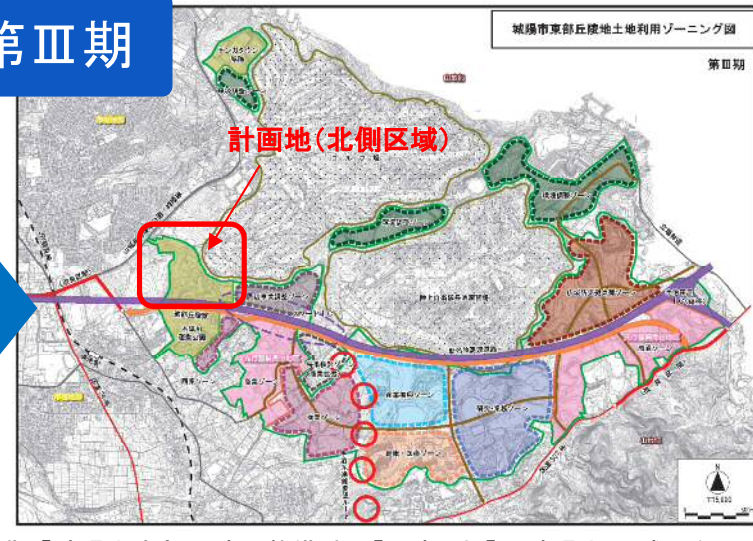
第Ⅰ期



第Ⅱ期



第Ⅲ期



出典:「城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】」(城陽市,平成28年5月)



2. 3 上位計画

京都府総合計画(R1.10)

～一人ひとりの夢や希望が全ての地域

京都府総合計画は、「将来構想」と「基本計画」、「地域振興計画」によって構成しており、府民の皆さまと手を携え総力を結集し、経済的量的拡大だけを追い求めるのではなく、「豊かさ」の価値を再創造し、高い理想と夢を掲げた「京都モデル」で日本、世界をリードする、そして、府内全ての地域が、活力にあふれ誇りの持てる、新しい時代の京都を、築き上げたいと考えています。



京都府知事 西脇 隆俊

20年後に実現したい将来像

1.人とコミュニティを大切に共生の京都府

子育てに優しい社会は、全ての世代にとっても暮らしやすい社会です。一人ひとりの尊厳と人権が尊重され、男性も女性も、子どもも高齢者も障害者も、外国人も、全ての人が地域で「守られている」「包み込まれている」と感じ、誰もが持つ能力を発揮し、参画することのできる社会づくりをめざします。



2.文化の力で新たな価値を創造する京都府

地域の文化を継承・発展させ、京都府に住む人、学び働く人、訪れる人など全ての人を惹きつけ、さらには、文化が、観光、食、伝統産業から先端産業まであらゆる分野と融合し、京都流の新たな価値を創造し、発信し続ける社会づくりをめざします。



3.豊かな産業を守り創造する京都府

大学や多様な企業、研究機関の集積を生かし、高度人材の確保、あらゆる産業分野の融合、ビッグデータの活用、さらには、AI・IoT分野の新たな技術開発やその活用で、イノベーションを起こし、キラリと光り輝く企業が府内のあらゆる地域に立地している社会づくりをめざします。



4.環境にやさしく安心・安全な京都府

頻発する自然災害の要因ともいわれる気候変動に適応し、「脱炭素」で環境にやさしい社会を実現するとともに、ハード・ソフトの両面から、災害だけでなく、犯罪等からの安心・安全、そして全ての地域が地域資源を生かした豊かさを実感できる地域づくりをめざします。



で実現できる京都府をめぐらして

基本計画



(1) 府民協働で取り組むきょうとチャレンジ

- ① 子育て環境日本一 ② 府民躍動 ③ 文化創造
- ④ 新産業創造・成長 ⑤ 災害・犯罪等からの安心・安全

(2) エリア構想

- ① 北部グローバル構想
- ② 京都スタジアムを中核とするスポーツ&ウェルネス構想
- ③ 北山「文化と憩い」の交流構想
- ④ 新名神を活かす「高次人流・物流」構想
- ⑤ スマートけいはんな広域連携構想

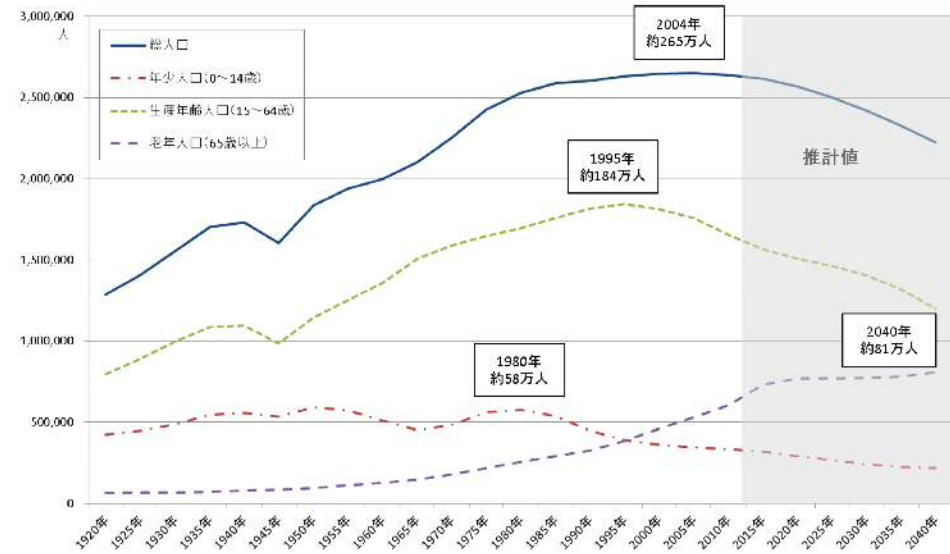
(3) 分野別基本施策

① 希望あふれる子育て	② 夢を実現する教育	③ 安心できる健康・医療と人生100年時代	④ 安心できる介護・福祉の実現	⑤ 人権が尊重される社会
⑥ 男性も女性も誰もが活躍できる社会	⑦ 障害者が暮らしやすい社会	⑧ 留学生・外国人が生き生きと暮らせる社会	⑨ コミュニティが大切にされる社会	⑩ 誰もが親しみ夢が広がるスポーツ
⑪ 文化力による未来づくり	⑫ 産業の創出・成長・発展と継承	⑬ 魅力ある観光	⑭ 雇用の安定・確保と人材育成	⑮ 農林水産業の成長産業化
⑯ しなやかに災害に強い地域	⑰ 犯罪や事故のない暮らし	⑱ 脱炭素社会へのチャレンジ	⑲ 成長・交流・情報・暮らしの基盤づくり	⑳ もうひとつの京都の推進と地域連携

← 各チャレンジはコナラ

2. 4 人口減少・少子化、超高齢化社会の深化

- 現在（2015年現在）も京都府の高齢化率は27.5%と、「超高齢社会（高齢化率21%以上）」と定義され、さらに20年後は33%となる。
- 超高齢社会では医療福祉分野の課題が大きくなり、特に要介護者の急増が見込まれる。
- 年少人口は現在の3/4に減少。子育て支援が重要な課題となる。



京都府の人口推移・推計

出典:「京都府ビジョン」(京都府,平成27年10月)

京都府の将来人口割合

	2015年現在		2035年(20年後)		2035/2015年 倍率
	人口	割合	人口	割合	
総数	2,610,353人	100%	2,338,843人	100%	<b>89.6%</b>
0~14歳	315,555人	12.1%	238,908人	10.2%	<b>75.7%</b>
15~64歳	1,575,849人	60.4%	1,322,507人	56.5%	<b>83.9%</b>
65歳以上	718,949人	<b>27.5%</b>	777,428人	<b>33.2%</b>	<b>108.1%</b>

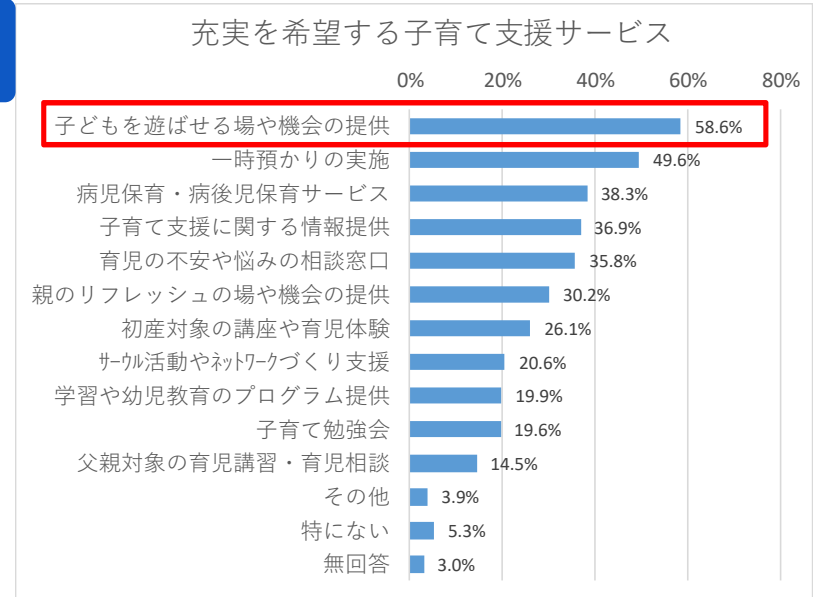
出典:「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所,平成30年12月25日)



2. 5 子育て支援や健康長寿に関する府民ニーズ

「子どもの遊び場」が求められている

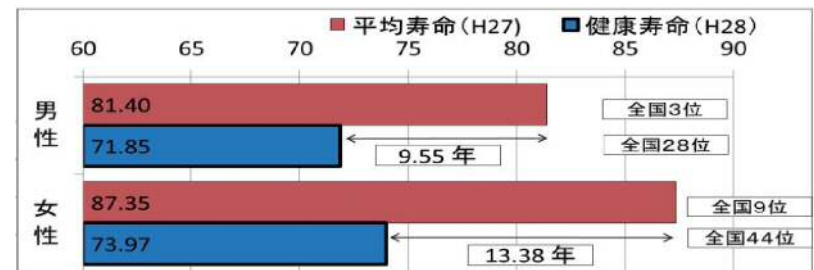
- 20～44歳京都府民に対する調査（2014年京都府少子化要因実態調査）では、子育て支援サービス充実の希望として、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が58.6%と最も多い。



出典:「京都府少子化要因実態調査報告書」(京都府,平成27年3月)

健康寿命の延伸対策が求められている

- 平均寿命の全国順位は上位だが健康寿命は低位にあることから、全国的に見ても要介護期間が長く、健康寿命の延伸対策が求められている。



出典:「平成30年度健康長寿・データヘルス推進プロジェクト報告書」(京都府,平成31年3月)

2. 6 南側区域と北側区域の機能分担

◆南側区域

- ・府民参画により、**府民が育てる公園**
- ・大芝生広場を中心とした、**幅広い世代が利用**できる**レクリエーションの場**

◆北側区域

- ・新たなまちづくりが進められようとしている**東部丘陵地区の玄関口**として、**地域、広域交流を図る公園**
- ・**人口減少・少子高齢化の進行に対応**し、新たな利活用に対応した公園
- ・公園全体の**維持管理費の負担軽減**を図る、高度な施設配置
- ・**企業スポーツと地域の交流**



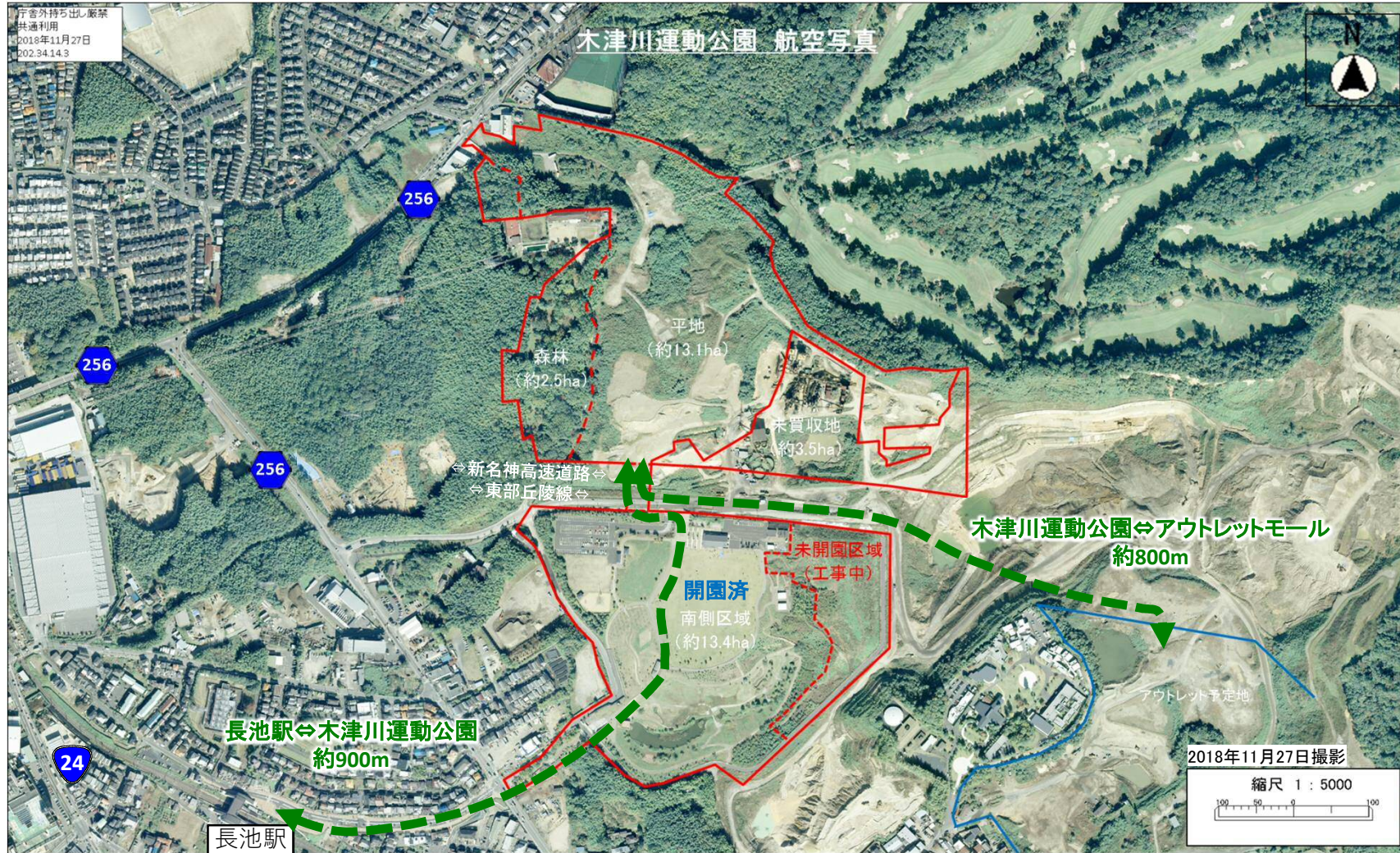
2. 7 北側区域の公園づくりの方向性案

- ◆**府民の子育てと健康長寿に寄与**する公園
- ◆新名神高速道路のスマートインターチェンジや国内最大級規模のアウトレットモールに近接する**地理的優位性を、賑わいや地域振興に活かした公園**
- ◆山砂利採取跡地の**緑の機能回復と緑を生かした公園**



### 3. 計画地の状況と基本造成計画案

#### 3. 1 現地の状況（航空写真）





3. 2 敷地の特徴

- 北側区域は、敷地内の高低差が大きく、南側と北側では**最大20m程度の高低差**がある。
- 山砂利採取後に埋戻しを行っているため、**地盤の強度が弱く、重量構造物**などを建設することができない。

木津川運動公園（北側区域）の地盤状況  
公園主軸断面

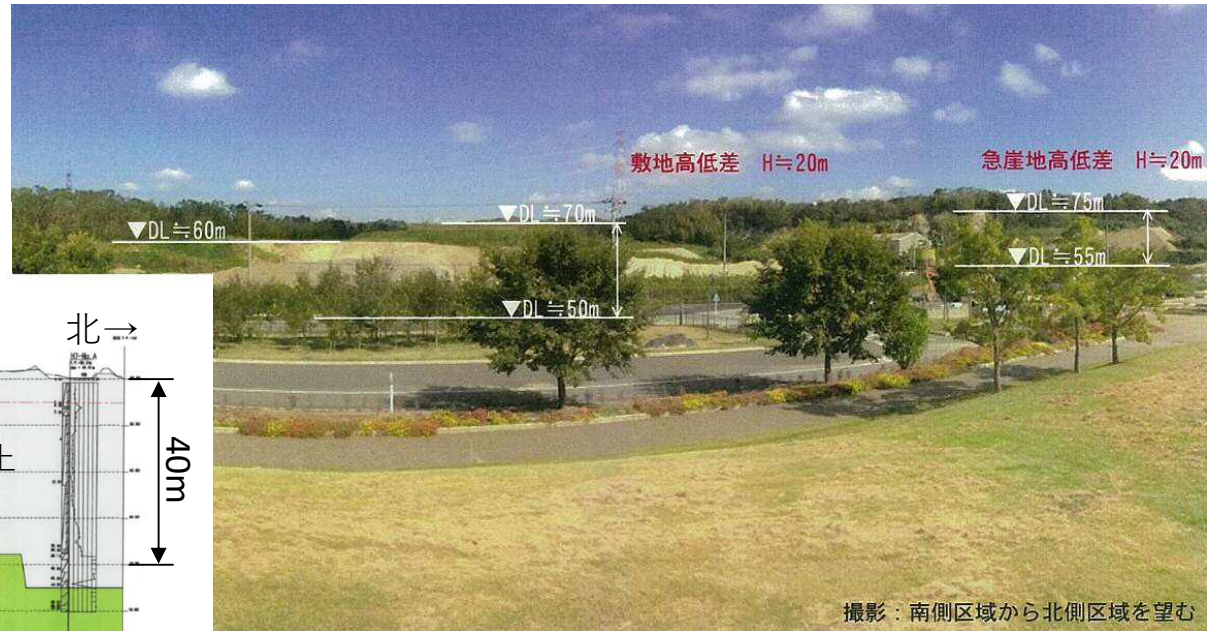
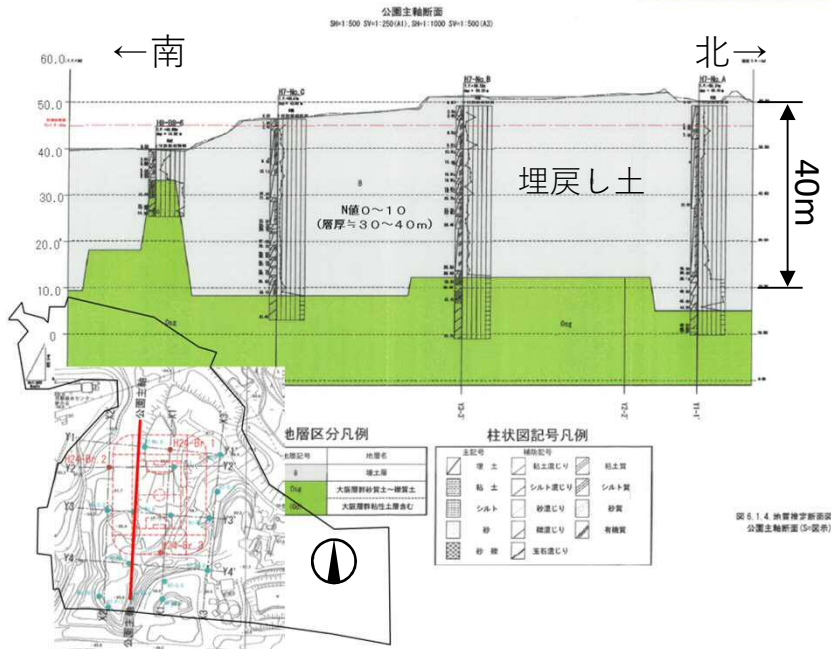
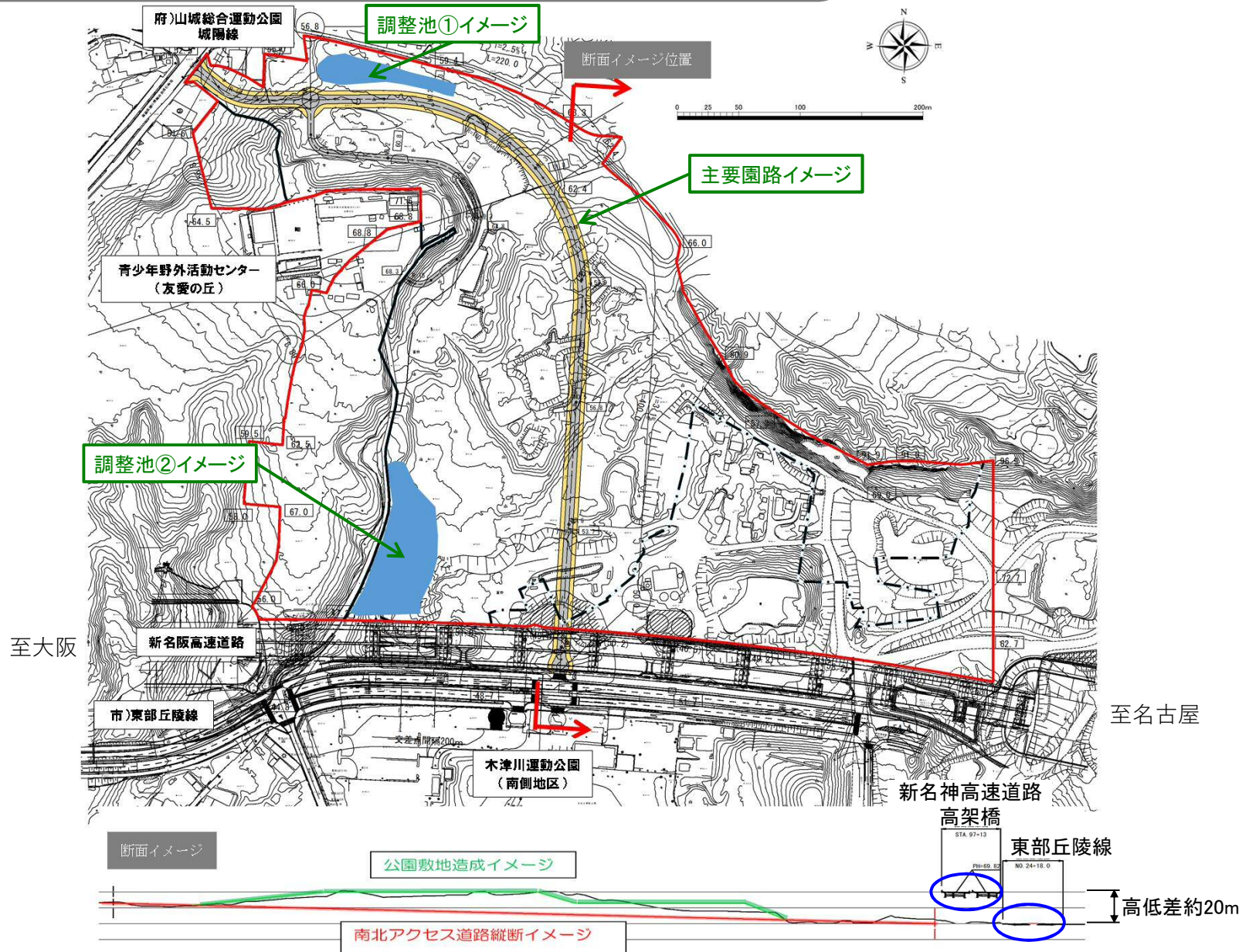


図 6.1.4 計画地軸断面  
公園主軸断面 (S-図例)



3. 3 主要園路・調整池イメージ（北側区域）



## 4. 都市公園の整備・運営に係る最近の動向

### 4. 1 都市公園での民間活力の導入

- 都市公園の**活性化や魅力の向上、持続的な施設整備・更新**を進めていくため、公共の資金だけでなく、民間の資金を活用することが必要。
- 民間活力導入は公募によって募集。事前に**サウンディング（官と民が直接対話し意見交換・提案を行う）を実施**するケースが多い。

### 4. 2 民間活力導入によるメリット

- 公園管理者のメリット：財政負担の軽減、公園サービスレベルの向上
- 民間事業者のメリット：長期的視野での投資・経営が可能、収益向上にもつながる質の高い空間の創出
- 公園利用者のメリット：サービスが充実、公園の利便性、快適性等の向上



全国の多くの都市公園で民間活力を用いた公民連携事業が推進

## 5. 課題の整理

### 社会情勢の変化

- ・人口減少・少子化社会
- ・超高齢化社会
- ・公園利用者ニーズの多様化
- ・情報技術の進展

### 周辺の土地利用計画の進展や変化

- ・新名神高速道路(令和5年度供用)等の道路計画が進展
- ・アウトレットモールを始め、東部丘陵地における土地利用計画が具体化

### 計画地(北側区域)の事業の必要性

- ◆京都府内の都市公園の整備状況が7.7㎡/人(京都市含む)であり、目標(10㎡/人)を未達
- ◆北側区域(約19ha)のうち、約15.5haの用地を取得済であり、公的財産の有効活用が必要
- ◆山砂利採取跡地(荒廃地)における緑の機能回復が必要

### 国・京都府法令

都市公園法等の改正  
(平成29年)  
Park-PFI制度の創設等

京都府都市公園法に基づく  
都市公園の設置等の基準に  
関する条例  
目標:公園面積10㎡/人

### 上位・関連計画

京都府総合計画  
(令和元年10月)

京都府総合計画  
地域振興計画  
(令和元年10月)

木津川右岸運動公園(仮称)  
整備計画に対する提言  
(平成16年3月)

第4次城陽市総合計画  
(平成29年7月)

城陽市都市計画マスタープラン  
(平成30年5月)

城陽市東部丘陵地整備計画  
【見直し版】(平成28年5月)

### 木津川運動公園(北側区域)の計画見直し

現計画(H16.3提言)より当該事業を取り巻く状況の変化、都市公園法の改正など踏まえ、公園機能の見直しや新たな事業スキーム(公民連携)の可能性検討が必要。



## 6. 木津川運動公園（北側区域）の方向性案

- 府民の子育てと健康長寿に寄与する公園
- 新名神高速道路のスマートインターチェンジや国内最大級規模のアウトレットモールに近接する地理的優位性を、賑わいや地域振興に活かした公園
- 山砂利採取跡地の緑の機能回復と緑を生かした公園
- 民間企業との連携により、整備・運営の効率化、質の高いサービスの提供、ニーズの変化に柔軟に対応できる公園